

## 地域情報

(一社) 熊本県野菜振興協会阿蘇支部

### ホウレンソウの萎凋病対策

阿蘇地域では、小国町、南小国町を中心にホウレンソウ栽培が盛んに行われており、西日本で数少ない夏秋期のホウレンソウを栽培できる産地として、福岡・熊本を中心に出荷されています。しかし、夏秋期のホウレンソウでは、高温期の萎凋病の発生が収量低下の大きな要因となっており、その対策が求められています。

そこで、令和5年度は、農研機構が開発した「転炉スラグ※を用いた土壌pH矯正による土壌病害の被害軽減技術」を用いた萎凋病発生の軽減効果の実証を行いました。令和5年度の試験の結果、転炉スラグを施用することで、土壌pHを矯正し、慣行区に比べて萎凋病の発生が抑制される結果となりました。

令和6年度は、試験ほ場を増やした拡大試験を実施しており、転炉スラグを用いた萎凋病対策技術の普及拡大を推進しています。

今後も、阿蘇支部では、ホウレンソウの収量向上に向けた支援を行っていきます。

※転炉スラグ：製鉄所で銅を製造する際にできる副産物のこと。

転炉スラグには微量元素が含まれており、土壌pHを高めても微量元素欠乏が生じにくい。



慣行区の様子



転炉スラグを施用した展示区の様子